

# 平成17年度宮古群島病害虫発生予報第1号（4月予報）

## 4月の気象予報

### 要素別予報

要素	気温	降水量	日照時間
予報	並	並	並

(平成17年3月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

### 地域平均の要素別「平年並」の範囲

要素	気温( )	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島	21.5～22.0	127.7～189.1	117.6～138.7

(平成17年3月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

## 4月の発生予報 および防除上の注意事項

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

### 宮古群島

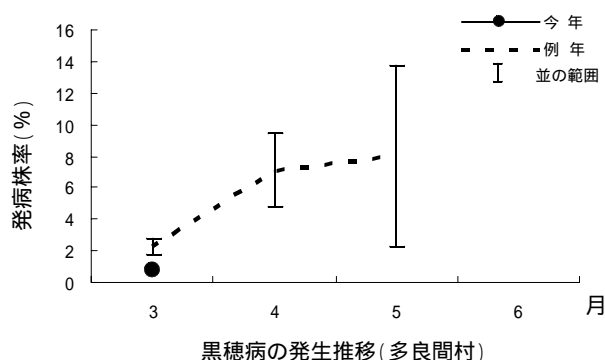
#### 1 さとうきび

##### (1) 黒穂病

発生程度 : やや少(多良間村)

予報の根拠

- a 3月中旬の調査の結果、新植夏植圃場での発病圃場率は25.5%であった  
(前年54.0%、一昨年60.0%)
- b 3月中旬の調査の結果、新植夏植圃場での発病株率は0.7%であった  
(前年2.3%、一昨年2.6%)



### 防除上注意すべき事項

平成17年度沖縄県病害虫発生予察技術情報第1号(平成17年4月1日付け)参照。

(2) カンシャコバネナガカメムシ

発生程度 : やや少

予報の根拠

3月下旬の調査の結果、茎当たり成虫数は4.4頭(前年1.8頭、平年59.2頭)と平年よりやや少なかった。

防除上注意すべき事項

- a 2~3月の気温に基づき、3月27日時点で防除適期を予想すると表の通りとなる。今後の気象の経過次第で多少変動することもある。
- b この時期に地域一斉防除することが望ましい。
- c 薬剤防除の際は、周辺住宅地に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月27日現在)

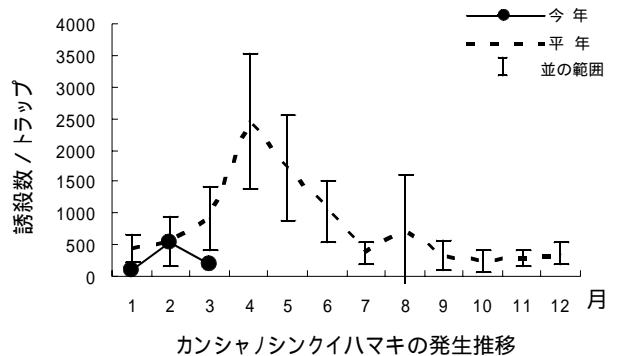
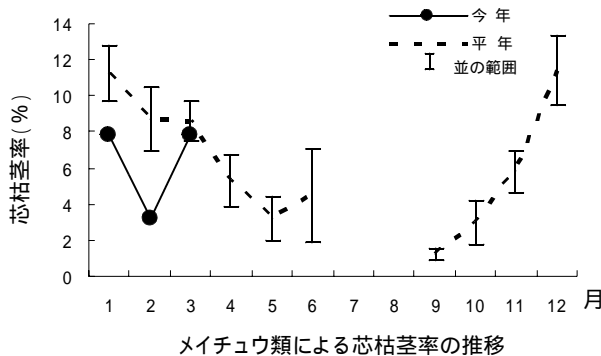
地域別	防除適期	2.5歳期予想日		
		本年	平年	平年差
宮古諸島	4月13日~4月27日	4月20日	4月17日	3日遅い

(3) メイチュウ類

発生程度 : 並

予報の根拠

- a 3月上旬の調査の結果、新植夏植圃場での芯枯茎率は7.8%(前年6.7%、平年11.2%)と平年並であった。
- b 3月のカンシャノシンクイハマキの性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺虫数は199頭(前年694頭、平年917頭)とやや少なかった。



防除上注意すべき事項

- a 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点をおく。
- b 植え付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

イナゴ類の防除対策について（平良市・多良間村）

- a 多良間村における3月中旬の調査の結果、さとうきび圃場においてタイワンツチイナゴ成虫を少数ながら確認した。
- b 平良市、多良間村では、例年4～6月頃にイナゴ類の発生が見られるので、若齢幼虫の発生源となる圃場および周辺雑草（ススキなど）の防除を行う。

## 2 マンゴー

開花・着果期の病害虫防除対策について

- a 3月下旬の調査の結果、チャノキイロアザミウマ、チャノホコリダニ、マンゴーハダニの発生が認められた。
- b 一部施設ではチャノホコリダニによる蕾や花穂への加害が確認された。
- c 病害虫の発生程度はまだ低いものの、今後、気温の上昇とともに増加すると予想されることから、早期発見・防除に努める。